



1 水戸部七絵の作品『FACE』は、油絵具を積み上げた彫刻のような絵画。2 会田誠の『ちび』は、プラスチックの弁当箱を用いた作品。3 清川あさみの作品は、機重もの糸によって自身の顔が立体的に浮かび上がる『9月15日 Sep.15』。

アートコレクター・高橋龍太郎氏スペシャルインタビュー

“顔”が語るアート

誰にとっても身近なものである顔は、たくさんのアーティストが作品にしています。その顔の絵と抽象画を並べると見えてくるものは？ 数多くの“顔”の表現を見てきた高橋龍太郎さんに聞きました。

Interview&Text : NAKO AONO

人の顔に現れる 自意識と美意識

精神科医であり、現代美術のコレクターとして知られる高橋龍太郎さん。最近では同時代の作家だけでなく、近代の日本の画家たちにも目を向けています。「青春芸術村」で開かれていた展覧会は高橋さんと青春白樺美術館のコレクションから「顔」と「抽象」をテーマに選んだもの。高橋さんは「顔の絵が好きなんです」と言います。

「精神科医という仕事柄でしょうか。音楽でもヴォーカルなど、人に関わるものをよく聴きますね」

身近なモチーフである顔の描き方は時代によって違うのだそう。

「顔の絵は自意識の表現であり、社会とどう関わるかということと深く結びついています。近代の画家のものは苦悩の表情を浮かべているものが多いのですが、その独特の緊張感が私たちの心を打つのです」

顔の絵と抽象画は関係のないもののように思えますが、実はつながりがある、と高橋さんは言います。

「顔の絵に表れる自意識を取り払うと表現が抽象的になって美意識だけが残ります。ということは顔の絵と抽象画はスペクトラム（帯状）に連なっているのではないか。そう考えて今回の出品作を決めました」

展覧会が開かれている青春芸術村は岡本太郎も訪れたという、桃源郷のような場所。ゆっくりと時を過ごしたい展覧会です。

1 水戸部七絵 (FACE) 2014、油彩、本製(厚紙、27.5×31×18cm) 2 会田誠 (ちび) (ラブリカ) 2014、油彩、本製(厚紙、27.5×31×18cm) 3 清川あさみ (9月15日 Sep.15) 2016、機重もの糸、本製(厚紙、27.5×31×18cm) 写真: 29.5×29.5cm © Asami Kiyomi



Data

高橋コレクション 顔と抽象
—青春白樺美術館コレクションとともに

会期：2018年3月18日（日）～5月6日（日）まで
会場：青春芸術村内青春白樺美術館、光の美術館、梅原龍三郎アトリエ
山梨県北杜市長坂町中丸2072
tel.0551-32-4865
営10時～17時【入館は16時半まで】
※月曜【ただし、祝日の場合は翌平日】
料金：¥1,500（一般）



Profile

高橋龍太郎
Ryutaro Takahashi

1946年生まれ。精神科医。1997年から日本の現代アートを中心に収集を始め、草間彌生、荒木経惟、奈良美智など主要な作家から若手まで約三千点のコレクションを所蔵。コレクションの展示や貸し出しも積極的に行っています。